

# 東日本ユニオン **TOKYO**

JR東日本労働組合東京地方本部  
発行責任者 郷 重雄  
発 行 東京地方本部教宣部  
2017年11月4日 NO. 46

## 年末手当第1回目交渉！

中央本部は、11月1日、申第4号「2017年度年末手当に関する申し入れ」について第1回目の交渉を行いました。本部交渉団は趣旨説明を行い満額回答は十二分にできることを、経営側に訴えてきました。

### 組合側趣旨説明要旨



第1四半期決算は、連結・単体ともに増収増益を示した。さらに営業収益では第1四半期決算としては過去最高、四半期純利益も過去最高を示している。この結果は日々の「安全・安定輸送」に努め、収入を確保しているJR東日本グループで働くすべてのJR労働者の努力の結果に他ならない。

グループに働くすべてのJR労働者は、会社発足30周年の今日に至るまでグループの持続的成長と発展に寄与し、人材育成、技術継承の重責を担うJR労働者の努力、業務量や責任が増大し続けている中で、グループ内で技術を磨き、継承し続けているエルダー社員の努力、有期雇用の不安とたたかいながら職場の中心で業務を担うグリーンスタッフの努力が相まって今期の成果を生みだした事実に対し、経営側は「満額回答」という形で応えなくてはならない。

昨今、景気は上昇傾向と言われているが、今年の10月から原材料費の高騰などを理由とした食品や日用品といった生活必需品の値上げや、上昇を続ける電気やガス料金、保険料などにより、この間の賃金改定も相殺されている。着実に成果を上げ、成長を続けるJR東日本グループは年末手当の満額回答を通してJR労働者の生活を向上させ、消費拡大の起爆剤としていることで、すべてのステークホルダーからの信頼に応える社会的責任も持ち合わせているとも考える。

**本気でJRで働く全ての社員の労に報いるならば、その答えは「満額回答」以外あり得ない！**